

青少年のネットリスク低減のための教育・教材 —台湾のヒアリング調査から—

Education and Tutorials for reducing online risk of young generations - Cases in Taiwan -

折田 明子^{*1}, 高橋 聡^{*2}, 小松 正^{*3}
Akiko ORITA^{*1}, Satoshi TAKAHASHI^{*2}, Tadashi KOMATSU^{*3}

^{*1} 関東学院大学人間共生学部

^{*1} College of Human and Symbiotic Studies, Kanto Gakuin University

^{*2} 東京理科大学 経営学部

^{*2} School of Management, Tokyo University of Science

^{*3} 多摩大学情報社会学研究所

^{*3} The New Institute for Social Knowledge and Collaboration: Kumon Center, Tama University

Email: oritako@kanto-gakuin.ac.jp

あらまし：青少年のネットリスク低減の手段の一つに情報リテラシーやモラル教育があるが、新しいサービスや利用状況に教材や教育方法、教員や保護者の知識が追いつききれない問題がある。本稿では、筆者らが2018年3月に台湾教育省にて実施したヒアリング調査およびWebで提供されている教材について報告するものである。台湾では教育政策と法案の両方でネット安全教育を進めつつ、教員および児童・青少年・家庭・一般向けに対し多様な教材やマニュアルをWebで提供している状況であった。

キーワード：情報リテラシー、情報モラル、教材、青少年、ネットリスク

1. はじめに

インターネットの利用開始時期は年々低年齢化しており、10代がインターネットを利用する時間も長くなっている。総務省の調査によれば、2016年時点で10代は平日一日あたり164分スマートフォンでインターネットを利用しており、その利用時間の大半である58.9分をSNSの読み書きに費やしているという⁽¹⁾。一方で、2017年の警察庁の発表によれば、出会い系サイトの被害児童は13人で2008年以降減少傾向にあるのに対し、コミュニティサイトに起因する被害児童は919人で増加傾向にある。さらに、被害児童の86.1%はスマートフォンを使用してコミュニティサイトにアクセスしている⁽²⁾。

このようなインターネット利用に伴うリスクを低減させるには、生徒および家庭への教育が必要であるものの、新しいアプリケーションを次々利用するコミュニケーションの形は、保護者や教員世代の想定するものとは限らず、現状に沿った実効的な教材を提供する難しさがある⁽³⁾⁽⁴⁾。

筆者らは、インターネット上で提供および取得が可能なウェブサイトやアプリなどの教材に着目し、国内外の事例の調査を行っている。本稿では、その一環として、2018年3月に実施した台湾の調査事例について報告する。

2. 調査概要

2018年3月20日、筆者らは共同研究者とともに台湾のMinistry of Educationを訪問し、青少年のイン

ターネット利用の現状および具体的な施策についてヒアリングを行った。

2.1 台湾の青少年利用状況

2017年時点において、台湾では小学生から高校生までの90%がインターネットをしており、タブレットやスマートフォンの利用率は小学校高学年では68.7%だが、中学生は91.7%、高校生は99.0%と非常に高い。主な利用目的は、ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)、インスタントメッセージング(IM)、動画、ゲームであり、特にSNSやIMは人間関係の構築に利用されているとのことであった。インターネットの利用にあたっては、特にネット依存が懸念されており、保護者は未成年の端末には網路守護天使(Network Guardian Angels)⁽⁵⁾のアプリをインストールし、使用時間の制限をしているとのことであった。

インターネット利用における安全教育については、教育政策と法案の両方で進めており、特に就学前児童の保護者が意識することが必要とのことであった。義務教育の小学校および中学校では、Information Education、高校ではIntroduction to Information Technologyと扱いであり、2019年から正式に教科となるとのことである。ただし、すべての教員がインターネット利用の安全教育に詳しいわけではない(例えば情報セキュリティなど)。そのため、インターネットに関する教育は専門家が担当する状況とのことであった。

3. ネット安全教材

本節では、台湾教育省が Web サイトで提供している教育関連のコンテンツについて紹介する。

3.1 教員向け教材・教育法サイト

中小學路素養興認知(teacher.edu.tw)は、教員向けの Web サイトである⁽⁶⁾。教材は学年別に作られており、2001 年から 2017 年までに作成された、動画やゲームなどの多様な教材が 84 点 (2018 年 3 月時点) 掲載されている。それぞれの教材には、「教學指引」という手引が電子ファイルでリンクされており、教育目標、対象、時間 (40~45 分など)、児童・生徒の背景や身につけるべき事柄が詳細に書かれており、さらに授業内での時間ごとの教育内容についても記載されている。また、教材のほか、教員向けの情報提供や、児童・生徒向けのポスター画像も掲載されており、このサイトの情報を用いることで一通りの情報リテラシー教育を行うことが可能となる。



図 1 中小學路素養興認知(teacher.edu.tw)



図 2 クイズ・動画の教材例(teacher.edu.tw より)

3.2 一般・家庭・向け教材サイト

「全民資安素網素養興認知」(iSafe)は、全国民を対象としたネットリテラシーの学習サイトである⁽⁷⁾。教材は児童、青少年、家長 (家庭)、大衆 (一般) 向けにそれぞれ分かれている。いずれのカテゴリにおいても、「文章」「マンガ」「動画」「ポスター」の 4 種類の教材が用意されている。

児童版はマンガや動画の教材のみであるが、青少年版からは文章の教材も加わる。教材を表示すると、内容に応じたミニクイズも表示され、クリックして解答することで正誤も分かる。家庭版では、ハンドブックが Google Drive から PDF 形式で提供もされている。



図 3 全民資安素網素養興認知(iSafe)



図 4 青少年版の教材例 (iSafe より)

4. おわりに

本稿では、台湾の若年層のインターネット利用状況をふまえて、教育省が Web サイトで提供している教材について概観した。サイトはシンプルな構成で、教材のサムネイルが表示された上で目的・対象別に教材を探しやすいものであり、閲覧する際にも特別なインストールや準備は不要であった。インターネット利用時間が多い青少年からは、気軽にアクセスができると考えられる。

今後は、日本の文部科学省をはじめ各府省が公開している教材や素材の現状とも比較し、より実効的な教材の提供について検討を進める予定である。

謝辞：本研究の一部は、JSTRISTEX 「未成年者のネットリスクを軽減する社会システムの構築」の支援によるものである。

参考文献

- (1) 総務省情報通信政策研究所: “平成 28 年情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書”, http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01iicp01_02000064.html (2017) (参照 2018.6.10)
- (2) 警察庁: “平成 29 年上半年期におけるコミュニティサイト等に起因する事犯の現状と対策”, https://www.npa.go.jp/cyber/statics/h29/H29_siryou.pdf (2017) (参照 2018.6.10)
- (3) 竹内和雄: “スマホ時代に対応する生徒指導・教育相談”, ほんの森出版, 東京 (2014)
- (4) 折田明子, 吉川厚, 田代光輝, 江口清貴: “マンガ教材による若年層に向けた実効的な情報リテラシー教育の試み”, 情報社会学会誌, Vol.11, No.1, pp.61-70 (2016)
- (5) 網路守護天使 (Network Guardian Angels), <https://nga.moe.edu.tw/> (参照 2018.6.10)
- (6) Teacher.edu, <https://eteacher.edu.tw/Desktop.aspx> (参照 2018.6.10)
- (7) iSafe 全民資安素網, <https://isafe.moe.edu.tw/> (参照 2018.6.10)